研究員 の眼

むしろ増えている保育園待機児童数 都市部に集中する一方、待機児童ゼロの地域も。地域差をならす 検討が有効。

生活研究部 主任研究員 久我 尚子 (03)3512-1878 kuga@nli-research.co.jp

待機児童数の推移 [各年4月1日時点] 待機児童マップ [平成28年4月1日現在] =1,000人 °≥= 23,553× 0人「都道府県数:91 1人以上~100人未满[13] 100人以上~500人未满[16] 500人以上~1,000人未满[3] 1,000人以上~3,000人未满[5] 3,000人以上~5,000人未滿[0] 5,000人以上[**1**]

「保育園落ちた」ブログで も大きな社会問題となった待 機児童問題。政府で保育園の 整備が進められる一方、待機 児童は解消されず、最近では、 むしろ増加傾向にあります。

アベノミクスによる雇用拡 大、女性の活躍促進策などに より、働く女性が増えている ためでしょう。また、待機児 童の大半は、東京を中心とし た都市部に集中する一方、待 機児童0で定員割れをしてい る地域もあります。

都市部では保育士・保育園 用地不足が深刻化しているた め、地方からの保育士の呼び 込み、あるいは、若年世帯の 地方移住など、地域差をなら すような検討も有効でしょう。

資料) 厚生労働省「保育所等関連状況取りまとめ(平成28年4月1日)

